

読み取り方を問い直すことで、 正しい順序で読み取り、まとめる力を高める学習

～2年「つながりを せつめいしよう」の実践を通して～

安部 彰 浩

I はじめに

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日）を受け、平成29年3月に告示された次期学習指導要領及び同解説国語編（同年6月）では、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って整理された。そして、こうした資質・能力を育成するためには、「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要であるとしている。答申によると



ペアで交流している児童の姿

この見方・考え方は、「思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること」である。

本年度からの国語科の研究では、主題を「自らの言葉を探究する言語活動を通して、言葉の力を高める国語科の学習」と設定した。これは前研究において、知識や技能の活用が十分ではなかったことを受けてのものである。そして、1年次の研究テーマとして、「言葉を手掛かりに、思考・判断・表現を問い直す学習づくり」を設定した。自らの言葉を手掛かりに思考・判断・表現を問い直し、表現や理解を見直すことで、思考力・判断力・表現力等の育成を図ることをねらいとした。

本実践では、読むことの指導事項イ「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」について、言語活動例ウ「事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと」を通して指導した。指導に当たっては、「つながりを せつめいしよう（単元）」（教育出版2年上）の『すみれと あり』（やぎま よしこ文）を中心教材とし、副教材（選択図書）として、『動物のちえ⑤ ともに生きるちえ イソギンチャクとくらすクマノミほか』（偕成社）の一部を使用した。本単元では、言語活動を「しらべてわかった 自ぜんの ふしぎを はっぴょうしよう」と設定し、中心教材で読み取りの基本を学び、学んだことを使って副教材を読み取り、まとめるという学習展開にした。

II 研究の目的と方法

本実践では、低学年の児童ということを考慮した「問い直す活動の充実」について、その手立てを明らかにするために、以下の2点について検証する。

- 問い直す活動を充実させる手立ての工夫
- 思考力・表現力・判断力の高まりを実感する自己評価

Ⅲ 結果と考察

1 問い直す活動を充実させる手立ての工夫

(1) 結果

低学年の児童にとって、自らの言語活動を問い直すのは容易ではない。それは、自身を客観的に見るという発達段階にはないからである。したがって、「問い直す」というより「振り返る」くらいのニュアンスで活動できるように考えた。

事前調査の最後に、「教室掃除の仕方について説明してください。」という質問をした。事前調査の時間は、25分間である。すべての児童が、20分以上の時間を説明に割いていた。書き終えた児童に注目していると、読み直し、書き直しているという児童は、4名しか確認できなかった。

事前調査の様子から、活動の達成度を明確にして児童に示すことで、言語活動の問い直しが可能になると考え、ループリック的な考えを取り入れた「アドバイスシート」を用意した。達成度を具体的にするための方法として分かりやすいのは、数値目標を設定することだと考え、「数を数える」「いくつあるか」「順番を付ける」ということを行動指標とした。

また、中心教材と副教材の両者に対応できる（児童が使える）ようにするために、あえて空欄を設けた文体として示した。

2年「すみれと あい」アドバイスシート								名
今日の学習で できるかな? できたかな? たしかめながら 学習しよう。*								部
たしかめること。	/	/	/	/	/	/	/	
□が することは、何ですか。*	/	/	/	/	/	/	/	
□について 書かれている 文が いくつあるか 数えましたか。*	/	/	/	/	/	/	/	
□が、 することの数を 数えましたか。*	/	/	/	/	/	/	/	
□が することに <u>じゅんぱんを</u> つけましたか。*	/	/	/	/	/	/	/	
□が することに 「まず」「つぎに」「そして」「さいごに」などの ことばを つけて まとめ ましたか。*	/	/	/	/	/	/	/	

資料1 アドバイスシート

4	1	2	5	3	じゅんぱん
◆まとめて みよう せしをさかせた。 みをつけた。 たねをひいた。 地めんにおちた。					すみれの ようす
く	そして、みの 中から、たねが いきおいよくとび出します。	すみれは、花を さかせた あと、みをつけます。	地面に おちて いきます。	とび出した たねは、つぎつぎと ちかくの	ひらきます。
		みの 中には、たくさんの たねが できて います。			

資料2 ワークシート1回目

4	6	1	5	3	2	じゅんぱん
◆まとめて みよう まず、ありが、地面におちて、すみれのたねを見つめます。 つぎに、よく見ると、たねには、白いかたまりがついていて、そのまわりの土は、そのまわりの土の中へは、こぼれません。 そして、土は、そのまわりの土の中へは、こぼれません。 このまわりの土は、そのまわりの土の中へは、こぼれません。 たねは、そのまわりの土の中へは、こぼれません。						ありの ようす
ねを、すの外に すてて います。	しばらくすると、ありは、せうかくはこんだた	どうやら、たねは たへないようです。	見つけました。	ありが、地面に おちている すみれの たねを	すてられた たねからは、ちどもとついていた 白い	よく 見ると、たねには、白い かたまりが ついて います。

資料3 ワークシート2回目

資料2、資料3は同じ児童のワークシートである。アドバイスシートを使った1回目の読み取りでは、資料2のように要点を簡条書きにするようなまとめが多く見られた。2回目の読み取りでは、資料3のように「まず」「つぎに」などの順序を示す言葉を使ってまとめる児童が増えた。

副教材をまとめる時には、ほとんどの児童が、順序を示す接続語を用いてまとめていた。

ワークシートは、正しい順序で読む力と、要点をつかむ力を高めることを目的としたものであった。中心教材の文章を文の順序を入れ替えて児童に示した。

ワークシートを使用した1回目の授業では、順序の検討時に次のような意見が出されていた。

- ・「実ができていないと種はできないから、『みをつけます。』の文が最初のはずだ。」
- ・「実がさけるから、種が飛び出せるんだ。」
- ・「種は飛び出さないと地面に落ちることができないよ。」

また、2回目の授業では、

- ・「種を見付けてからじゃないと巣へ運べないから、見付けるのが最初だ。」
- ・「白い固まりが大事だから、『白い かたまりが ついています。』の文が最初だ。」
- ・「ありのことが書かれている（場面だ）から、見付ける方が先だ。」

などの話合いがあった。

いずれも、文の内容について出来事の順序に着目した発言である。

アドバイスシートは、中心教材を使った読み取りで2回、副教材を使った読み取りで2回使用した。副教材の読み取りのときには使用する指示を出さなかったが、児童が進んで使用している姿が見られた。

(2) 考察

児童のワークシートの変容から、アドバイスシートによって、順序を意識して読み取り、まとめることができるようになったことが分かる。

順序を意識した読み取りは、ワークシートへの取り組み方からも感じられた。文を正しい順序で並べる活動では、ペアやグループで意見を交換しながら作業を進めていた。全体での確認では、文の内容を検討する話合いが行われ、出来事の順序を正しく読むための読み方を身に付けていくことができたと言える。

1回目の読み取りの学習では、アドバイスシートを上手く使いこなすことができていなかった。2回目の使用になって、まとめ方に変容が認められるようになった。これは、アドバイスシートの内容を意識するようになったことを表していると考えられる。

アドバイスシートを積極的に活用するようになったのは、副教材の読み取りを始めたときである。授業者が、シートを使うタイミングを知らせなくても、児童は作業をしながら必要なときにシートを取り出して確認することを繰り返すようになった。このことから、児童は自分の活動の内容を振り返りながら作業を進めることの大切さに気付いていったのだと考えることができる。

2 思考力・判断力・表現力の高まりを実感する自己評価

(1) 結果

本実践では、振り返りの場面を中心教材、副教材を使った学習の場面と、単元の終末の2つとして考えた。

前者では、学習で用いたアドバイスシートの内容をいくつ使うことができたかということと、簡単な感想を書くことで振り返りを行い（資料1、4）、後者では、①単元を通して学んだこと、②学び終わって考えたことについてノートに記述した。

中心教材、副教材を使った学習場面での振り返りでは、アドバイスシートの内容をいくつ使ったかを振り返ることはできても、簡単な感想を書くことがなかなかできなかった。

授業の終末場面では、①について、「順番が正しく読めるようになった。」「『まず』『次に』が使



写真1 アドバイスシートを見ながら作業を進める児童

学習のふりかえり	
自分の学習の仕方を ふりかえって みましょう。どんなところが よかったですか。*	
※ふりかえること	
◆友だちと きょうかできましたか。	◆自分の考えを もちましたか。
◆できるように なったことは 何ですか。	◆つぎの 学習で どんなことをしたいですか。
月/日	ふりかえり
/	
/	
/	

資料4 学習の振り返り

えるようになった。」などの記述が見られた。また、②については、「作文を書くときに『まず』とか使えそう。」「他の動物の本も読みたい。」という記述が見られた。

(2) 考察

児童が読み取りやまとめの作業に没頭する程に、振り返りの時間を確保することができなくなったのは、児童にとっての作業量を読み誤っていたところが大きな要因である。

しかし、アドバイスシートの内容をいくつ使ったかという振り返りは、シートの内容を覚えるだけでなく、使えるようにすることにつながったと考えられる。

また、単元末の振り返りでは、単元を通して自分ができるようになったことを実感している表記が見られたことから、このような振り返りを繰り返すことで、他の教科・領域や実生活に使えるという実感も得られるようにしていけると考える。

IV まとめ

本研究では、自らの言葉を手掛かりに思考・判断・表現を問い直し、表現や理解を見直すことで、思考力・判断力・表現力等を育成する授業の在り方について検証してきた。以下に成果と課題を示す。

1 成果

- アドバイスシートの文言を行動として示すことは、低学年でも学び方（読み取り方）を身に付けながら学習を進めることに効果的であった。
- 「アドバイスシートの内容をいくつ使ったか」という数を問う振り返りは、手軽に行うことができるとともに、学習内容の定着に活用できることが明らかになった。
- 単元末の振り返りで、「単元を通して学んだこと」「学び終わって考えたこと」について記述させるのは、低学年には難しい活動であるが、言葉の力の向上を実感したり、学習内容と日常をつないだりするには有効な手立てであった。

2 課題

- 「問い直す活動」に取り組む児童の姿を、学年ごとに系統立てて設定するなど、具体的な児童の姿を明らかにしながら研究を進めていく必要がある。
- 単元全体での振り返り場面の設定について、児童が振り返る活動への必要感をもつような単元の構想について研究をする必要がある。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領 文部科学省 平成29年3月
- 小学校学習指導要領解説 国語編 文部科学省 平成20年8月
- 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申） 中央教育審議会 平成28年12月
- 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成23年11月
- 初等教育資料 No.946 「国語科において育成を目指す資質・能力」 文部科学省 東洋館出版社 平成28年11月
- 初等教育資料 No.951 「国語科における改訂の具体的な方向性」 文部科学省 東洋館出版社 平成29年3月
- 『国語授業のユニバーサルデザイン 全員が楽しく「わかる・できる」国語授業づくり』 桂 聖 東洋館出版社 平成23年3月
- 『国語授業UDの作り方・見方』 桂 聖・奈須正裕 学事出版 平成28年2月